



感染症まん延の恐れ

AMDA医療チーム

東ティモール現状報告

の医療チームが五日、岡山市内で記者会見し、「避難民のキャンプ生活は長期化が予想される。衛生環境が悪く、雨期に入ると感染症がまん延する恐れがある」と報告した。

会見には医療チームの六人が出席。チームによると、消化器疾患や栄養失調の避難民が多く、足を銃で撃たれた少女を治療したケースもあった。巡回診療では極度の脱水症状になった男児(三歳)と女児(四歳)の治療も行ったという。

また、重症者でも警戒心から診療所に来ない人も多く、救うためにはキャンプの巡回が必要としている。

医療チーム(医師や看護婦ら七人)は九月二十一日、

現地に出発。AMDAインドネシア支部のチームと合流し、東西ティモールの境から約百キロの西ティモール・ケファメナヌ市を中心に、

二日までに計約九百人を診察したという。

現在、インドネシア人医

師ら五人が活動中で、今後も日本人調整員らを順次派遣する予定。

西ティモールで、負傷した避難民を治療するAMDAスタッフ(AMDA提供)

東ティモールの避難民救済活動を行い、帰国した国際医療ボランティア・AMDA(本部・岡山市櫛津)